



NIPPON BEARING

10月29日付日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】平安時代から続く京町家。現代建築でも再評価される秘密とは？

①耐震構造がある ②免震構造がある ③耐震・免震構造の両方がある

【答え】③耐震・免震構造の両方がある

【解説】

国内外から、大勢の観光客が訪れる京都。歴史ある寺社仏閣とともに、趣ある町並みも大きな魅力です。その町並みを支えているのが、長い年月を経てきた京町家です。

京町家とは、昭和25年（1950）以前に建設された木造建築物のうち、伝統的な構造及び都市生活の中から生み出された形態、または意匠を有するものとして定義しています。その京町家は千年の都の歴史的な価値、洗練された繊細な意匠とともに、職人たちの知恵と技を凝縮したその工法も、大きな注目を集めています。

京町家の歴史は、平安京の時代が起源といわれています。平安京では公家たちが地方から徴用した職人や商人たちが、京都に居住するようになりました。そうした人たちが通りに面した屋敷地に小屋を造ったのが、京町家の始まりとされています。

江戸時代に入ると社会状況が長期に安定し、経済的な成長も継続。住民たちの生活が豊かになると様々な技術も発達し、瓦屋根や畳のような建築技術も進化します。こうした建築技術・工法の発達で、今日の京町家の原型が形成されます。

京町家の構造は、伝統軸組構法です。建築基準法制定以前からある工法で、筋かいや金物に頼らず、柱や梁などの木組みと壁の貫、土壁などによって、地震や台風などへの建物の耐力をつくり出しています。

また、基礎は、一つ石と呼ばれる石を使用。柱ごとにひとつずつ据えられ、石と柱は緊結しません。これによって建物全体が滑ってズレることで、地震の揺れを建物まで伝えない構造となっています。まさに、伝統の免震構造といえるでしょう。

京町家は建物としての役割と同時に、建物とともにある文化や暮らしを守るものでもあります。

その保存には、町の人々や職人たちの力や技が欠かせません。時を超えて守られてきたものを、この先もその技や暮らしとともに伝えていきたいものです。

■参考

公益財団法人 ニッポンドットコム webサイト

<https://www.nippon.com/ja/>